

V202a 小型 JASMINE の解析ソフトウェアの開発

山田 良透 (京都大学), Wolfgang Löffler (ARI Heidelberg), 郷田 直輝, 矢野 太平, 吉岡諭 (海洋大), 穂積俊輔 (滋賀大)

小型 JASMINE は、本講演申込時には計画審査の準備中であり、間もなくミッション定義フェーズに上る予定である。ミッション提案時に提出した LOI に基づき、現在 Heidelberg 大学とデータ解析に関する協力を進めており、DLR での予算も獲得された。Heidelberg 大学のメンバーには、昨年度より定期的に来日していただき、キャリアレーション手法を含めて議論を進めている。

位置天文観測は、データ解析のウエイトが非常に大きい。ミッション定義フェーズに上るにあたり、ソフトウェア開発の WBS を作成したところまでは、前回の学会で報告した。その後、アジャイル開発の手法を取り入れて WBS を見直し、他のハードウェアコンポーネント同様、開発仕様書の作成を行い、その上で、WBS を詳細化した。Heidelberg 大学のチームはすでに Gaia のソフトウェア開発において経験があるため、ソフトウェアコンポーネントの選択、開発期間の見積もり等について誤りがないか、必要な人員等について議論を進めている。

また、ソフトウェア開発に関して協力をしていただけそうな国内メンバーの組織化を進めている。スペースプロジェクトは長期間にわたるため、作ったものがすぐに役に立たなくなるリスクを避けるため、ソフトウェアの観点で、組織も開発手法も十分にシステム化されたものにしなければならない。ソフトウェア開発やシステム開発の経験、加えてキャリアレーションモデルの作成のための航空宇宙工学の知識を重視している。

本講演では、その結果を報告する。